法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-23

〈動向〉 『高尾山薬王院文書』全三巻の完結

村上，直

(出版者 / Publisher)
法政大学史学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政史学 / 法政史学
(巻 / Volume)
45
(開始ページ / Start Page)
120
(終了ページ / End Page)
121
(発行年 / Year)
1993-03-24

Hosei University Repository

『高尾山薬王院文書』全三巻の完結

村上　直

高尾山薬王院文書の第三巻は、第二巻に引き続いて、寺院経営関係、寺中関係、寺領関係、絵図・刊行物の四項目の文書や絵図類、それに補遺を収録することにした。『高尾山薬王院文書目録』によると、薬王院においては寺院経営関係二七七点、寺中関係七〇点、寺領関係二一八点、絵図・刊行物六八点が所蔵されているが、第三巻には、これらのうちから次のような文書や絵図等を選んで収録することにした。

寺院経営関係は元禄一二年（一六九九）から明治三一年（一八九八年）に至る間の文書のうち、年未詳を含めて五三点、寺中関係は元禄七年（一六九四）から明治三年（一八七〇）に至る間で、年未詳を含めて三四点、寺領関係は寛永八年（一六三一）から明治三三年（一九〇〇）に至る間で年未詳を含めて八五点、絵図・刊行物は寛永八年、明和九年（一七七二）、文化四年（一八〇七）の三点、それに補遺として寺歴・住職関係の安永二年（一七七三）、安永三年（一七七四）、安永六年（一七七七）の文書を三点、幕府・明治政府関係の安政四年（一八五七）の一点、信仰関係の天保三年（一八三二）と明治三年（一八七〇）合わせて一点（二史料）、合計一八〇点を選択した。

高尾山薬王院は、慶安元年（一六四八）に朱印高七五石が確定し、それと共に寺領の領域も決められたのである。間もなく薬王院が大宮大明神の別当職をつとめることになり、寛文検地によって高尾山境内の開発地が御水帳に記載されたのである。やがて明治四年（一八七一）には、寺領は上知され官有林になったのであるが、これらの推移のなかで薬王院文書は、今まで明らかでなかった、貴重な史実を伝えているのである。

寺院経営関係では、主として経営のための金銭出納関係の史料が収録されており、内容はきわめて多様である。そのなかには、境内の堂宇や鳥居の修理、建設や苗木の植付け、払木、また寺領の小作関係なども明らかにされている。また、寺中関係では、薬王院内の諸用件に関わるものが中心であり、分担金関係の他、寺中行事や生活状態また助人足としての登山の案内人の姓名や事故などが分る史料も含まれている。寺領関係では、寺領の範囲や面

Hosei University Repository

積、寺領百姓の実態などの他、山内法度や諸役負担について明らかにされているが、さらに、山論や秣場に関連しての訴訟など寺領と百姓の諸関係やその動向についても知ることができる。なお、第三巻は、このような内容の文書と絵図等の一部が収録されているが、形式、配例、解説などは、すべて第一、二巻に準じている。

巻末には収録文書の解説が収録されているが、執筆は寺院経営関係＝村上直、寺中関係＝段木一行、寺領関係＝馬場憲一の三名が行い、文書の内容が理解するように配慮されている。

『高尾山薬王院文書』の刊行は、昭和六一年五月に調査団が結成され、高尾山薬王院有喜寺と法政大学の間で、調査に関する覚書に調印し、全文書の整理が開始された。調査団は団長、委員四名、調査員八～九名、事務局からなる構成であり、作業は史学科の大学院・学部生（日本近世史ゼミナール）の協力によって進行し、昭和六二年に『文書目録』が作成され、さらに補遺の文書を加えて全二五七三点の文書を整理・分類することができた。文書は、戦国期、寺歴・住職、江戸四箇寺、諸寺院、末寺、幕府・明治政府、紀州藩、寺院行事、信仰、寺院経営、寺中、寺領、絵図・刊行物の一三項目に分類され、これらのなかから重要と思われるものを、全三巻の史料集（A5判）として刊行する計画を立て、文書の選択と解説の作業が進められたのである。

『高尾山薬王院文書』の刊行は、平成元年一〇月に第一巻（収録文書三一九点）、同三年三月には第二巻（収録文書二一五点）、同四年三月には第三巻（収録文書一八〇点）をもって完了した。全体の収録文書は七一四点であるが、これに関連文書一〇点を加えると七二四点になる。

このように六か年の歳月を経て『高尾山薬王院文書』全三巻の刊行が完結したことを記念して、平成四年六月六日、多摩校舎の百周年記念館において、記念講演会と祝賀会が開催された。文書の内容は多岐にわたるが、薬王院の法燈を伝える諸文書をはじめ、寺院経営や末寺一七か寺、そして、戦国大名、江戸幕府や明治政府との関係、庶民や武家信仰、寺領や江戸との関連を知ることができる貴重な史料が収められており、近世寺院や多摩の地域史研究に資する文書として注目されている。今後、多くの人々によって活用されることを大いに期待したい。

なお、高尾山薬王院文書の概要については、村上直「高尾山薬王院文書について」『ぐんしょ』第一七号（続群書類従刊行会）に記したので、参照していただきたい。